

施策番号	0802		
施策名	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出		
概要	産学公連携の下、京都に集積する企業・大学・研究機関等の優れた技術と知的資産を生かして、付加価値の高いものづくり産業を育成・振興する。また、コンテンツ、デザイン、文化芸術など創造的都市活動の分野において、京都の有する地域資源・産業集積を生かした、新産業・新事業の創出を図る。		
担当局・部室	産業観光局・産業振興室	共管局・部室	
上位政策	8 産業・商業		
施策に関する主な分野別計画等	京都市新価値創造ビジョン		

施策の評価

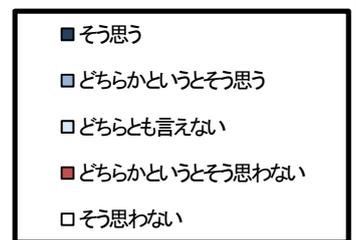
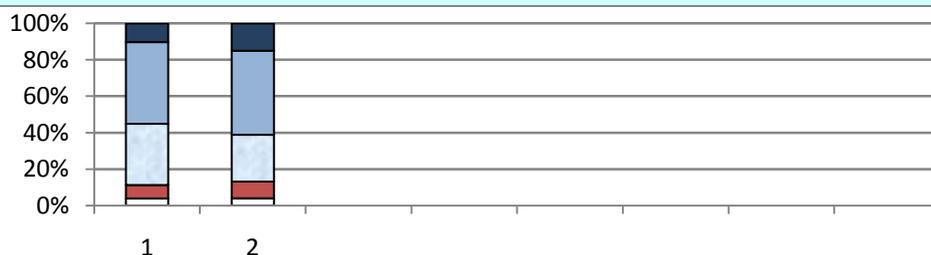
1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					指標のウエイト
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	
1 コンテンツ産業推進事業及びマンガミュージアム新展開事業の件数(件)	-	a	6	5	4	125.0%	a	1.00
2 知的クラスター創成事業に係る共同研究成果による単年度売上高(億円)	-	a	18.1	35.2	20	176.0%	a	1.00
3 知恵産業融合センターとの連携により創出された事例件数(件)	-	-	-	4	4	100.0%	a	1.00
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答					有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	53 10.3%	232 44.9%	174 33.7%	38 7.4%	20 3.9%	517	b
2 京都の特色を生かした産業活動が行われている。	80 15.0%	246 46.2%	137 25.7%	49 9.2%	21 3.9%	533	b
3 -							-
4 -							-
5 -							-
						市民生活実感調査総合評価	b



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					23 年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 当該施策においては、産学公の連携でものづくりの付加価値を高めることが重要であるため、市民の実感以上に客観指標を重視する。						年度	-
(原因分析) ・コンテンツ産業推進事業については、マンガコンテンツの活用などにより目標値を達成した。また、知的クラスター創成事業に係る共同研究成果による単年度売上高は目標値を達成、知恵産業融合センターも目標を達成したことにより、客観指標評価全体はa評価となった。 ・また、市民生活実感評価はb評価で、京都の特色を生かした産業活動やものづくりが行われていると概ね評価していただいている。 ・このため、総合評価はA評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	産業技術研究所管理運営(京都ものづくり未来館)	1,202,076	1,303,127	かなり良い	産業観光局
2	京都産学公連携機構分担金	8,310	8,310	かなり良い	産業観光局
3	コンテンツ産業推進事業	29,683	59,555	良い	産業観光局
4	中小企業知的財産活用強化プログラム	2,871	2,871	良い	産業観光局
5	知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)	52,421	52,421	かなり良い	産業観光局
6	京都発実用化研究開発支援事業	8,621	4,871	かなり良い	産業観光局
7	バイオシティ構想事業	73,148	77,777	かなり良い	産業観光局
8	マンガミュージアム新展開事業	26,681	18,809	良い	産業観光局
9	知恵産業創造支援事業	-	37,341	-	産業観光局
10	京都産業育成コンソーシアム分担金	5,351	6,551	-	産業観光局
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・新産業の創出京都の強みを生かした人材育成のための環境整備などにより、京都の有する地域資源・産業集積を生かした付加価値の高いものづくり産業を育成・振興するとともに、産学公の連携による新産業・新事業の創出を目指す。

施策名	0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出
-----	------	---------------------------

指標名	コンテンツ産業推進事業及びマンガミュージアム新展開事業の件数（件）	
-----	-----------------------------------	--

担当課	産業振興室	連絡先	222-3324
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

京都市コンテンツビジネス研究会（平成20年度から21年度）での議論を踏まえ、今後取り組むべきコンテンツ産業振興及び新産業創出に係る事業展開の取組件数

2 指標の意味

「クリエイター等の人材の育成と活用」、「京都コンテンツの産業化」、「京都コンテンツの発信力の強化」に向けた進ちょく状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：他都市の見本市での商談件数を参考に算出
（出典：事業担当課調べ）

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	6	5	1件減	4	中長期目標達成のために当年度達成すべき数値	125.0%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値		10	23年度	110%

京都未来まちづくりプラン目標値

備考	次年度からは23年3月に策定した「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画に基づき、コンテンツ産業に係るビジネスマッチング件数に指標を変更予定
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

当該指標については、目標達成をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

	23	24
-	a	a

指標名	知的クラスター創成事業に係る共同研究成果による単年度売上高（億円）	
-----	-----------------------------------	--

担当課	産業振興室	連絡先	222-3324
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

知的クラスター創成事業（※）の参画機関の共同研究成果による単年度売上高
※ナノテクノロジーを基盤核技術に、環境分野に絞り込んだ研究開発及び事業化を推進するとともに、先端部材製造企業が集積する京都の特性を生かして、「環境ナノテク部材」開発の拠点化を図り、国際的競争力のある「京都環境ナノクラスター」の形成を目指す事業

2 指標の意味

共同研究成果の事業化に向けた取組状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：知的クラスター創成事業中核機関調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	18.1	35.2	17.1億円増	20	事業の最終目標75億円に向けた単年度ごとの目標値 平成22年度：10億円 平成23年度：20億円 平成24年度：40億円	176.0%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値		75	24年度	46.9%

平成24年度までの「本事業に係る共同研究成果による累積売上高」の予測を中核機関である（財）京都高度技術研究所が本事業に参画する企業にヒアリングし、まとめた累積数字

備考	
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、景気変動など、外的要因によるところが比較的高いことから、目標率の80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

	23	24
-	a	a

施策名	0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出				
指標名	知恵産業融合センターとの連携により創出された事例件数（件）					
担当課	産業技術研究所	連絡先	326-6100			
1 指標の説明						
知恵産業融合センターと企業等が連携し、京都の伝統産業から先端産業まで幅広い分野の技術を融合させた事例の件数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
京都の有する地域資源を生かした新産業・新事業の創出に向けた取組状況を示す指標			出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	目標値		
				数値	根拠	
数値	-	4	-	4	各研究グループ（3）と知恵産業融合センターがそれぞれ毎年融合件数を創出する目標値 平成23年度：4件 平成24年度：4件 平成25年度：4件	
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		
数値		4	25年度	100.0%	平成22年11月に知恵産業融合センターを創設。平成22年度は準備期間であるため、実績なし。	
5 評価基準		6 基準説明			7 評価結果	
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：80%以上～100%未満 c：60%以上～80%未満 d：40%以上～60%未満 e：40%未満		当該指標については、目標達成をa、以下20%刻みで基準を設定した。				
					23	
					24	
					a	